

平成29年度ひまわりパーク六本松事業報告

事業概要

平成24年4月中央区六本松（草ヶ江校区）に事業所を開所以来、安心して働き、また地域に貢献する事業所を目指して運営しています。地域との交流は地域の清掃を定期的に行うほか地域行事にも参加し、事業所として地域からあたたかい支援をいただき安心して活動に取り組んでいます。平成29年度は工賃向上と多様な働く機会の提供を目指し、アート活動・販売、簡易作業、施設外就労を通じて社会と関わり、元気な事業所づくりに取り組んできました。その結果、大幅な工賃向上とともに多くの方々との出会いや社会参加ができました。具体的な事業内容は次のとおりです。

1 利用者状況

平成30年3月31日現在

項 目	内 容		
平均年齢	47.5歳（20歳～63歳）		
職員数	11名		
利用者居住区別	東区2名、博多区2名、中央区4名、南区12名、城南区7名、早良区7名 計34名		
事業別利用者数・定員	利用者（定員）	男性	女性
就労継続支援事業B型	31（24）	21	10
就労移行支援事業	3（6）	2	1
合 計	34（30）	23	11

2 主な事業の取り組み

（1）事業別活動状況（生産活動）

ア 就労継続支援事業B型（工賃向上を目指す事業）

就労継続B型事業平均工賃（月額）

平均工賃月額	作 業 内 容
20,453円 (28年度 13,079円) (27年度 8,415円)	アート活動・販売（文具他）・簡易作業（施設内での封入・封かん他）、施設外就労（公園清掃、倉庫作業、ビル清掃）

（参考 厚生労働省発表 平成28年度全国平均工賃月額 15,033円）

① アート活動

当事業所の特徴であるアート活動は共催事業として福岡市植物園（温室ギャラリー）におけるダンボールアート展をはじめギャラリー（中央区）やコーヒーショップ（中央区）での展示会を実施したほか福岡市障がい児・者美術展、ビタミンアート展（久留米市美術館）、くばらだんだんアート展に多くの利用者が応募

するなど積極的に取り組みました。また、福岡市役所ロビーで3か月間事業所紹介コーナーが設けられるなど多くの方に事業所の活動を知っていただく良い機会となりました。

29年度は事業所の特徴であるアート活動・販売は文具を中心に商品を増やし、「春・夏カタログ」、「秋・冬カタログ」の内容を充実させました。また販売にも積極的に取り組みデパートや商店街等の販売や、各種イベントにも積極的に出品し、出品回数は28年度を上回る年81回に達しました。主力商品のカレンダー（壁掛け、卓上）は2年連続で完売しました。販売等が好調の原因としては出品回数とともにカタログ販売の販路を拡大し、ネットによる販売の広報にも努めるとともに生活協同組合などに商品が掲載されるなど購入者の層も広がったことが考えられ、今後にもつながるものと期待しています。

その他2次使用として地下鉄のホームドア、飲料水の自動販売機に使用されたほか、原画販売も行い、より多くの方に障がい者アートの理解を進めることができました。

② 簡易作業・施設外就労

主な作業として事業所内で行う簡易作業は封入・封かん作業を中心に行いました。29年度は通常の簡易作業に加えガス会社の各家庭へのチラシの大量の封入・封かん作業を育成会の他の事業所とともに受託し、5月下旬から8月末までの期間に当事業所として約30万セットを納品することができました。

このほか29年度は施設外就労として公園清掃（隔月）、倉庫作業（週1回）、ビル清掃（週1回）など新たに多様な施設外の作業を提供することができ、工賃向上とともに利用者の積極性により作業の幅が増えました。

このようにアート活動、簡易作業、施設外就労に取り組むことで平均工賃の大幅な向上とともに利用者の自信や達成感にもつながりました。また事業所としては対外的にも認知度が高まり、今後もアート活動、簡易作業など幅広い受注が期待されます。

イ 就労移行支援事業（就職を目指す事業）

29年度は利用者が3名と28年度に比較し減少しました。利用者一人ひとりに応じたプログラムや就職への意向を踏まえて見学や受験等の支援を行いました。

また事業所内での就労セミナーやハローワーク等に同行し、就職面談会への参加や県の委託事業を活用し、見学会やトライアル雇用などに申し込みましたが、結果として一般就労に結びつくことはできませんでした。

今後は、一人ひとりの希望と強みや特性を考慮し、さらにきめ細かな支援を行う必要があります。

（2）余暇支援について

休日の余暇の充実を目的に毎月1～2回、利用者の希望も踏まえて実施し、毎

回15名前後（年間20回、延べ272名）の参加がありました。外出を楽しむとともに体験を通してマナーやルールを学ぶことに取り組んでいます。今後も、利用者の皆さんに共通する健康づくり等のテーマも含めて利用者の意向を踏まえながら取り組む必要があります。

（3）サークル活動及びレクリエーション等の取り組み

外部講師の指導のもとエアロビクス及び手芸サークルを毎月実施しました。利用者の皆さんはそれぞれの希望に基づいてサークル活動に参加されました。手芸サークルについては保護者の方が数名参加され、作品の充実とともに商品化にもつながりました。今後もサークル活動の充実に向けて検討する必要があります。

（4）健康支援(加齢化対策)の取り組み

加齢化に伴う疾病（生活習慣病等）の予防に向けて次のような支援を行いました。

事業名	内 容	参加者数
よかドッグ 同行支援（年1回）	福岡市のよかドッグ受診を活用し、近隣の医院へ職員同行で受診し、生活習慣病の改善を目指します。	希望者 13名
レントゲン検診 同行支援(年1回)	保健所において集団検診を受検し感染性疾患の予防を図ります。	希望者 25名
健康づくり教室 （毎月1回）	地域の医療機関の協力により健康づくり教室を開催し、理学療法士の指導により腰痛、肩こり予防のストレッチ等のほか健康に関する指導を受けています。	利用者 全員
毎朝の ストレッチ体操	健康教室で指導いただいた理学療法士のストレッチ体操を朝礼時に毎日行い、健康予防と仕事への気持ちの切り替えに活用しています。	利用者 全員

基本的な健康管理の支援を行っていますが、加齢に伴う疾患予防のため、各利用者の状況も把握し、新たな支援も検討する必要があります。

（5）本人活動の取り組み

日々のあらゆる機会に、自ら「考える」「選択する」「行動する」ことは重要です。その一つとし利用者が楽しみにしている「バスハイク」の目的地や行程について利用者間の話し合いを参考に目的地等を決定するなど事業所の活動の中で、利用者の意見や要望を伺う機会を設けています。今後とも本人の意思や要望など本人活動の充実につながる支援を工夫する必要があります。

(6) 安心・安全対策の取り組み

消防計画に基づく避難訓練を定期的実施し防災に対する意識を高めました。

また、避難経路及び避難時の注意事項を掲示し、日頃から火災発生時への対応を職員、利用者と共有するように努めています。

日常の防犯対策として施錠の確認を職員、利用者間で定着するように進めるほか、随時、警察（六本松交番）等とも連携を図るように努めています。

29年度は事業所内外で転倒事案が数件発生しました。幸いにも大きなケガ等には至りませんでしたが、要因の一部に見守りの不足もあり、年度後半から作業中に加え、特に休憩時間中の見守りを職員共有の課題として取り組んでいます。また事業所は九州大学と共同研究の「草ヶ江地区のICTを用いた街づくり」に参加し、利用者が無事に事業所に通勤していることを保護者へメール配信を行う機能と出退勤の時間管理をする事業を実施しています。この取り組みは保護者から利用者の出退勤の状況がメール配信されることで安心感が増したとの評価も得ていますが、共同研究を通して安心につながるさらなる方策を研究していく必要があります。

(7) 給食提供の取り組み

給食業者と定期的に給食部会を実施し、献立内容、調理方法の確認や感染症対策等に関して協議し利用者の健康状態に配慮した弁当給食の提供を行いました。特に食中毒やノロウィルス対策等のきめ細かな予防策を要望するとともに、事業所としても食事前の手洗い、消毒の徹底を行っています。

今後とも、利用者へバランスのとれた食事となるような給食提供を行うとともに、楽しい時間となるように利用者の意見や要望等も伺いながら取り組んでいく必要があります。

(8) 苦情解決及び虐待防止への取り組み

29年度は事業所として苦情解決処理第三者委員会に報告を行った事案が2件発生しました。いずれも申出を受けた後、速やかに事実確認等を行い、事業所全体で問題を共有し、解決策及び再発防止策を速やかに検討し、申出者に謝罪や再発防止策を説明し了解を得ました。今回の苦情等を契機に支援の課題などが明確になり、今後の再発防止と支援の向上に向けて事業所全体で取り組んでいく必要があります。法人主催の虐待防止研修等に職員が受講するとともに、日頃から保護者と交流を図りながら事業所の状況を積極的に説明し、事業所全体で安心して活動を行うことができる、あわせて相談がしやすい事業所づくりに取り組む必要があります。

(9) 職員研修の取り組み

事業所運営に職員の資質向上は最も重要な課題です。事業所内では日々の業務を通しての職場内研修（OJT）を実施するほか、職員の経験年数や役割に応じ

て、法人内の研修をはじめ福岡市や福岡県社会福祉協議会、社会就労センター等の研修に参加し、知識や技術の習得を図りました。特に障害者虐待防止法や人権に関する研修は職員全体に内容の周知理解を図るため全員受講や計画的に外部の研修に派遣し報告等を職員全体で共有しました。

また、職場内の研修として「社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会倫理綱領」に基づき職員は福祉の担い手として専門職の誇りを持ち、社会的使命や職務の責任を常に考え、利用者個人の尊厳の保持と良質なサービスを行うため職員の資質向上に努めていくことを確認しています。

(10) 介護等体験及び実習生等の受入

人材育成及び実習生等を受け入れることは、事業所として実習生に学ぶ機会の提供という目的のほかに利用者への日頃の支援等をより客観的に把握することができます。29年度は教職課程取得のための介護等体験大学生5名、福祉関係実習生11名の計16名の実習生を受け入れました。学生の皆さんの感想なども参考にすべきことがあり、今後に生かすため、引き続き実施する必要があります。

3 地域交流等の取り組み

(1) 地域との交流

校区の民生委員さんが毎月ボランティアとして利用者と一緒に作業していただいています。事業所も地域のまつりに毎年参加するほか町内会から花壇の世話も任され、地域の方と花いっぱい運動を進めています。また資源のリサイクルや事業所周辺のゴミ拾いも定期的に行い地域の清掃活動に取り組んでいます。

(2) 福岡ライフレスキュー事業

社会福祉法人が行う地域貢献活動については、当法人で定めている福岡ライフレスキュー事業（福岡市中央区連絡会）に参加し、関係団体との会議に参加するなど連携を進めています。今後とも福岡ライフレスキュー事業を通して地域貢献活動に取り組む必要があります。